

Information

お知らせ

院内感染防止対策に関する取り組み事項

1. 院内感染防止対策に関する基本的な考え方

感染防止対策には、安心、安全な医療提供の基盤となるものです。

当院は感染防止対策を病院全体として取り組み、病院に関わる全ての人々を対象として、標準予防策(スタンダードプリコーション)の観点に基づいた医療行為を実践し院内感染発生の予防と発生時の速やかな対応を行うことに努めます。また院内外の感染症情報を幅広く共有して、院内感染の発生に対して迅速に対応する活動体制をとっています。

2. 院内感染防止対策のための委員会、その他の当該病棟の組織に関する基本事項

当院における感染防止対策に関する意思決定機関として、院長、各所属長等で構成された院内感染対策防止委員会を設置し、毎月1回会議を行い感染防止対策に関する事項を検討します。また必要時には随時開催し、感染対策チームを設置し、感染防止対策の実務を行います。

3. 院内感染防止対策のための職員研修に関する基本方針

職員の感染防止対策に対する意識・知識・技術向上を図るため、全職員を対象とした研修会・講習会を年2回以上行っています。

4. 感染症発生状況報告に関する基本事項

法令に定められた感染症届出の他、薬剤耐性や院内感染対策上問題となる微生物の検出状況を報告し、(外注)注意喚起を行います。感染防止対策委員会に各種分離菌月報を作成して提出し、検出状況を共有し、必要に応じ感染対策の周知や指導を行います。

5. 院内感染発生時の対応に関する基本事項

院内感染が疑われる事例の発生時には、感染委員(リンクナース)は迅速に現場の状況を確認し、速やかに対応します。

6. 患者さんへの情報提供に関する事項

感染症の流行がみられる場合には、ポスター等の提示物で広く院内に情報提供を行います。あわせて感染防止の意義および手洗い・マスクの着用について、理解と協力をお願いします。

7. 抗菌薬適正使用に関する事項

耐性菌の出現予防のために広域抗菌薬等を指定抗菌薬に定めています。

抗菌薬使用患者は、使用量・効果などを定期的に抗菌薬適正使用支援チームが介入し、適切な抗菌薬使用となるように努めます。

8. その他の当院における院内感染防止対策の推進のために必要な基本事項

感染防止対策の推進のため、「院内感染防止対策マニュアル」を作成し、病院職員は遵守します。マニュアルはガイドラインを参考に、改訂結果は病院職員に周知徹底します。

病院職員は、自らが院内感染減とならないため、定期健康診断書を年1回以上受診し、インフルエンザ等の予防接種に努め、健康管理に留意します。

9. 感染対策における地域連携

当院は、感染対策向上加算3医療機関として、保健所や連携施設に助言を求めるなど連携を図ります。

